

# 6



# 月

# 父母と学ぶ会だより

N012～研修報告号～H25年 6月発行



平成 25 年度 自閉症支援講座（公開講座） 平成 25 年 6 月 4 日

## 講座「自閉症の特性理解と支援の基本」

講師 中山 清司 氏 自閉症 e サービス代表

- ・自閉症とは、脳の中の中枢神経の障害によっておこる発達障害。
- ・脳における情報の処理過程に違いがある。
- ・自閉症は心の病気ではない、育て方が原因ではない。
- ・行動や認知の特徴から診断する。

なぜ、自閉症の人は言うことを聞いてくれないのか？

なぜ、何を考えているのかわからないのか？

なぜ、自閉症を理解することは難しいのでしょうか？

自閉症とひとくくりになっていますが、1人1人が異なると言われるように多様な状態像を持った人たちです。「自閉症の文化」と言われるように私たちと「違う」独自の感じ方、特性、文化を持っています。自閉症を理解することは「違い」を認め、共存する作業です。そのためには、私達のほうから歩み寄り、自閉症の人の立場で考えることが重要です。

自閉症の正しい知識、正しい情報を学ぶことで自閉症の気持ちを考えていきましょう。

## 自閉症スペクトラム

### ①社会性（相互的な対人関係）の障害

人をあまり意識しない

特定の人を過度に意識する

適度に礼儀正しく、ルールに厳格 など

### ②コミュニケーションの質的障害

話しことばがない、話しことばの発達の遅れ。

話しことばがあっても、コミュニケーションの道具としてうまく使えない。

やりとりの問題（一方的、会話のキャッチボールができない）など

⇒伝わらないことによるお互いのストレス

### ③こだわりと想像力の障害

同じ行動を繰り返す

せまい興味に没頭する（エスカレートしやすい）

想像力の乏しさ（経験していないこと、目に見えないことをあれこれ想像することが難しい）

⇒変化が見通せない⇒混乱・不安

その他にも感覚の問題があり、極端に鈍感だったり過敏だったりします。

私達が自閉症の人とかかわった時のかかわりづらさ、理解のしづらさは、多くがこの自閉症の特性を知ることによって理解できます。

周囲のかかわった人が困っている時は、そのまま自閉症の人が困っている時とすることができます。

# 講座「ペアレンツトーク」 ～自閉症の子供を持つ母より～



## 1. はじめに

自閉症支援講座に参加してきました。午前と午後の前半は、講師：自閉症eサービス代表 中山清司氏による講座「自閉症の特性理解と支援の基本」についてのお話を聞きました。そして、午後の後半で自閉症の子供を持つ母親による講座「ペアレンツトーク」を聞きました。講話者は日高紀子氏、中山清司氏のところに相談している方です。子どもは20歳の男性で、現在大学に通う方です。

## 2. ペアレンツトーク

\* 2、ペアレンツトークに書かれている内容は母親である日高紀子氏による言葉です。

幼児期の頃は少し発達の遅れがあるものの自閉症とは気づきませんでした。ただ周りの子ども達と行動を比べると違いました。例えば、音楽の時間になると泣いて騒ぎ参加出来なかったり、友達と遊んだりすることはありませんでした。ただ、どうすればいいかわかりませんでした。小学校直前に自閉症の範囲内と言われましたが、そこから先どうしたらいいかわかりませんでした。小学校では特別支援学級に入り、部屋でおとなしく過ごすことが目標でしたが、部屋でおとなしく過ごすことは出来ませんでした。中学校では高校に入学させたい私達両親の希望により先生に1対1で授業を受けました。友達は一人も出来ませんでした。でも、誠意を持って接すれば成果が返ってくると信じていました。高校には自立支援コースのある高校に入学しました。この頃から友達が出来たり、人とのつながりが楽しめるようになりました。大学には本人の希望で行くことになりました。今は発達障害の受け入れをしている大学に通っています。

大学では、相談できる人がいたり、友達がいて楽しんでいきます。幼児期の頃、泣いて騒いで参加出来なかった音楽ですが、今はハンドベルのサークルに入っています。

## 3. おわりに

10年以上前、発達障害による教育はほとんどありませんでした。相談しても診断を受けても、誰が、何を、どうしたらいいのか誰にもわかりませんでした。母である日高氏も最後に「私の教育は間違っていました。」と言いました。それでも、誠意を持って接すれば成果が返ってくる。と信じていた日々の積み重ねが、今日の発達障害の教育につながるのだと思います。



(文責 林 祐太)



編集 岩谷 由香利